

## 審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和3年度（第62回） 松阪市美術展覧会 第2回運営委員会
2. 開 催 日 時	令和4年3月10日（木） 9時30分から11時30分
3. 開 催 場 所	松阪市殿町1340番地1 松阪市役所本庁舎 5階 特別会議室
4. 出席者氏名	（委員）◎牧田研介、○福井幸恵、杉本洋子、岩坂由華、 北島修、土嶋敏男、溝田幸輝、中村翠雲、 （◎委員長 ○委員長代理） （事務局）別紙のとおり
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	1名
7. 担 当	松阪市殿町1340番地1 松阪市事務局産業文化部文化課 担当者 : 阪口 山本 電 話 0598-53-4397 F A X 0598-22-0003 e-mail <a href="mailto:bun.div@city.matsusaka.mie.jp">bun.div@city.matsusaka.mie.jp</a>

### 協議事項

- （1）令和3年度（第62回）松阪市美術展覧会について
- （2）令和4年度（第63回）松阪市美術展覧会の開催について
- （3）その他

### 議事録要約

別紙

## 令和3年度 松阪市美術展覧会第2回運営委員会議事録（要約）

開催日 令和4年3月10日（木）午前9時30分～午前11時30分  
会場 松阪市役所本庁舎 5階 特別会議室  
出席者 北島修（日本画）、土嶋敏男（洋画）、溝田幸輝（写真）、中村翠雲（書道）、  
牧田研介（公募）、福井幸恵（公募）、杉本洋子（公募）、岩坂由華（公募）  
産業文化部長：内山、文化課長：川村  
文化振興主幹：山本、文化振興係：渡邊、阪口  
欠席者 前村実（彫塑）、服部日出夫（美術工芸）

### 1 開会

### 2 部長あいさつ

### 3 議題

#### （1）第62回松阪市美術展覧会について

##### ①松阪市美術展覧会 結果報告について

（事務局）以下報告

##### 1 ページ目

- ・今年度の美術展覧会の総出品数は、絵画部門 86 点、彫刻・工芸部門 44 点、写真部門 78 点、書道部門 57 点の計 265 点であり、昨年度と同数の出品数であった。9月に緊急事態宣言が発令されていた状況で昨年度と同様の出品数を維持できたのは事務局の予想以上にお出し頂けたと感じている。
- ・来場者数は、第1部 1,015 人、第2部 908 人の計 1,923 人で、昨年度と比較すると 605 人の減少という結果になった。しかし、9月30日まで三重県内に緊急事態宣言が発令により、第1部の会期を8日間から3日間へ短縮したため来場者数の合計としては減少したが、1日あたりの来場者数を比較すると、令和2年度は158人、令和3年度は174.8人であったので多くの方に来ていただけたと分析している。
- ・今年度も審査会は当日非公開。審査会の様子をビデオ撮影し、その映像を会期中にはにわ館のロビーで上映。映像は期間を通して235人の方に見て頂けた。（令和2年度は180人）
- ・高校生以下の出品数については昨年度同数の14点の応募であった。写真部門では小学生の出品者が1席を受賞し、若年層の活躍があったことは素晴らしいと感じている。若年層の出品数を増加させていくためにPRに注力しなければならない。

##### 2 ページ目

- ・企業賞は第60回から新設した賞であるが、今回も企業賞を設けた。4社から1部門1社ずつという形で賞を頂いた。今後も引き続き実施していきたい。
- ・入場者内訳としては、来場者数は資料1ページでお伝えした通り。

##### 3 ページ目

- ・第1部の入場者数は、期間が短縮となったこと、天候に恵まれたこともあり開催した3日間に集中する形となった。第2部についてはこの時期に一気に寒冷な気候になったこと、雨の日が続いていたことなどから平日の来場者数が伸びなかったと分析している。
- ・出品者は70代が一番多い。10代20代で微増だった。

#### 4 ページ目

- ・出品者の増減としては、絵画部門、彫刻・工芸部門は減少、写真部門、書道部門は増加した。合計数は昨年度と同じ 265 点。昨年度の出品者の内、部門別平均で約 23%が令和 3 年度には出品頂けず（令和 2 年度ときは 30%）、令和 3 年度の出品者のうち、新規の出品者が約 12%であった。連続して出品している方の減少数が少し抑えられたことで出品数全体の減少も抑えられたものと考えられる。しかしながら新規の方にも出品頂く様に PR 方法の検討を進めていかなくてはいけない。
- ・高校生以下の出品は、ほぼ例年横ばいの数となっている。こちらも PR を進めていかなくてはいけないことが課題である。

#### 5 ページ目～10 ページ目

- ・来場者のアンケートの結果では、コロナ関係の意見、開催期間短縮についての意見が多かった。短縮してでも開催できたことは良かったと感じている。

#### 11 ページ～18 ページ目

- ・来場者アンケート集計結果について。

(各運営委員からのご意見)

1. 出品数を増やす方向性を考える必要がある。若い作者の制作意欲をどのように引き出すかという視点での PR が必要。出品者の意識の問題だと感じている。根本的に美術への意識を高める、挑戦するという意識を啓蒙していくことが教育現場レベルで重要だと思う。
2. 何か若者に向けた PR というのはしているのでしょうか？
3. コロナ禍での展覧会となるとこれまでの対応とは別物。人との接触が避けられているこの状況下でより良くしていくのは難しい問題だと感じている。
4. 現在高校生以下の出品料を無料にしているが、その年齢を上げてみる方法はどうか。
5. 今の若い世代はスマホなどを使って写真を撮影する機会は増えている。その子たちが出品するような働きかけが必要だと思う。
6. 部活に所属している生徒などは先生から市展への出品を勧められたら出すと思う。指導者側がどれだけ後押しすることができるかという部分もあると思う。初めから市展へ出品したいと思う子は稀だと思うので、自分にも出品資格があるということを伝え底上げしていく事が重要と感じる。
7. 市展を拝見し素晴らしいイベントだと感じた。それと同時に敷居の高さも感じた。若者をターゲットにするのなら部門名を工夫し若者向けの部門を作ることも必要と感じる。
8. 子ども達の意見を聞いてみた。今の子どもたちは Yahoo や Google といった検索エンジンではなく、Instagram などの SNS でハッシュタグから情報収集している。松阪市のホームページは更新されていたが SNS での PR が弱いと感じた。松阪市も Instagram で公式アカウントを持っていると思うので PR に使ったほうが良い。また PR 期間も年間を通して継続的にする方が検索に引っかかりやすくなると思う。
9. 子ども達からしたら敷居が高いと感じている部分がある。技術を持った大人しか出品資格がないと思っている子も見られるので、若者でも出品できるという点も併せて PR をしていく必要がある。
10. 知人が今年初めて絵画部門に出品した。去年初めて市展を見学し、これなら自分でも挑戦できるかもと思ったことが理由だった。やはり市展へ出品することの敷居の高さを感じていたようだ。
11. 開催期間を短縮にしたことで様々意見が寄せられたと思うが、事務局としては今回の対応結果をどのように考えていますか？
12. 第 1 部、第 2 部の 2 部制になっているがそれをまとめて開催することは無理なのではないでしょうか？
13. 会場での写真撮影は禁止となっているが今後は撮影可能にしてはどうでしょうか？

(事務局の返答)

2. 夏休み子どもワークショップというイベントを小学生向けに開催している。長期的な目線になるが若年層へ美術そのものに興味を持っていただくための PR ということになる。他には出品要項やポスターを学校に配布しているが、今後は送るだけではなく直接依頼へ伺うことも必要だと感じている。
11. すでに搬入から審査・搬出までの日程が決まっている中での開催なので、今回の短縮という対応は出来る限りのことはできたと感じている。ただせっかく出品するのに期間が短いのはどうなのですかという厳しいご意見も数は少ないが寄せられた。
12. 会場スペースの都合が2部制となっている大きな理由。別会場を用意するという案もあるが、やはり文化財センターで開催することが好評であるためこのような形に落ち着いている。はにわ館のロビーなどを使ってやってみようかという意見もある。理想はまとめて開催することだと思っている。
13. 本人以外は原則撮影禁止となっているが、明確な基準を持っていないため、今後改善していてもいい部分だと認識している。

## ②夏休み子どもワークショップについて

(事務局) 以下報告 19～22 ページ

夏休み子どもワークショップは、次代の松阪市を担う子どもたちに、美術等へ関心を持つ機会を提供し、また制作した作品を展示することで発表する喜びを体験することを目的として平成27年度より開催している。今回は写真部門での開催。

夏休み子どもワークショップ 「自分の宝物でプリントTシャツを作ろう」		
写真部門	実施日	令和3年8月6日(金) 9:00～12:00
	実施場所	松阪市文化財センター
	実施内容及び参加者内訳 (指導者敬称略)	【参加者】20名 【指導者】溝田幸輝、嶋岡恭司、織戸千尋 【内容】指導者から写真撮影の簡単な講義を受けた後、参加者が各自で用意してきた自分の宝物を文化財センターの施設内や鈴の森公園内にて撮影。指導者のアドバイスを受けながら、それぞれのベストショットを1枚選び、その画像をTシャツへ転写して、自分だけのオリジナルTシャツを作成した。
募集方法	市内各小学校の3年生以上の児童(5,691人)を対象に募集チラシを配布	
申込内訳	FAX:61通 郵送:23通 合計84通	
作品展示	松阪市美術展覧会第2部の会期に合わせ、文化財センターはにわ館内に展示した。期間:10月17日(日)～10月24日(日)	
スタッフ体制	文化課職員、文化財センター職員、嶋岡先生の知人2名	

(運営委員からのご意見)

1. 今年度は応募人数が多かった、来年度以降は参加者の上限を増やすことも可能でしょうか?
2. 前回の写真部門での開催の時は参加人数が少なかったため今回は人が集まってとても良かった。

(事務局からの返答)

1. その年によって開催内容も変わるので参加人数の上限も変えている。令和3年度については当日の作業量を考えると20名が上限という内容となった。

## (2) 第 62 回松阪市美術展覧会について

### ①開催日程および会場等について

(事務局) 以下報告

23 ページ

- ・令和 4 年度（第 63 回）松阪市美術展覧会の開催案について

会場：松阪市の文化財センター

部門：第 1 部、第 2 部の 2 部門制

第 1 部 絵画部門と彫刻・工芸部門

第 2 部 写真部門と書道部門

日程：文化財センターの会場の予約等につき、会場はすでに予約済み。

第 1 部 9 月 23・24 日【搬入】、9 月 28 日【審査】、10 月 2 日～10 月 9 日【会期】

第 2 部 10 月 14・15 日【搬入】、10 月 19 日【審査】、10 月 23 日～10 月 30 日【会期】

いずれも会期については 8 日間を見込んでいる。

### ② 開催要項について

24 ページ～27 ページ

- ・開催要項等の案について

現状はあくまで案、様々な意見をお出し頂いたうえで、また来年度に向けての運営委員会等で最終決定をさせて頂く。

作品の公募要項：創作した未発表のもの

各自部門別で一人一点

出品料は 500 円、ただし高校生以下（18 歳以下）の方について出品料は無料

作品規定：出品される方に対して少しでも分かりやすくなるように試行錯誤している。

褒賞：こちらも出品者へ伝わりやすいように示したい。

(運営委員からのご意見)

- ・書道の先生へお聞きしたい、作品の表装のためにお金がかかると思うが、高校生などは仮表装での出品もあるのでしょうか。
- ・書道に関して高校生は部活に所属していると思う。その部内で額を持っているはずなので特に負担はないと思われる。他の出品者もそれぞれ指導者がいるはず、その指導者のもとで制作しているので特に問題はないと思う。

### ③ 審査委員および運営委員について

(事務局)

28 ページ、29 ページ

#### 審査委員について

松阪市美術展覧会審査委員設置要綱に基づき、今年度の運営委員(専門委員)に候補者の選出を行っていた。

#### 運営委員について

松阪市美術展覧会運営委員会設置要綱に基づき、任期は委嘱のあった当該年度としている。

ただし再任は妨げない。

【専門委員】任期は1年とし、令和4年度は別途選出する。

【公募委員】原則任期は1年だが、専門委員の先生が1年交代をされることもあり、再任をお願いできる方には再任をお願いしたい。

→公募委員の皆様は令和4年度も再任していただくこととなった。

(運営委員からのご意見)

1. 審査員の推薦ということですが、審査会などの開催日時は今後変更になることはあるのでしょうか。もし日程が変わったりする場合は事務局から連絡してもらえますか？

(事務局からの返答)

1. 会場予約の関係で日程が変わることは基本的にはない。審査会などのスケジュールに合わせてご出席いただける先生の推薦をお願いしたい。推薦いただいた先生には事務局からもご連絡させていただいております。

### (3) その他

その他全体を通してなにかご意見がないかを確認。

(運営委員からのご意見)

- ・出品数を増やそうと考えると、なにか初出品者へのメリットを与えることは出来ないかと思う。例えば展示の際に初出品や初入選という表記を付けて目立つように展示すれば出品者の意欲につながるかもしれない。
- ・審査委員の立場で考えるとスペース的なことも考えながら入選落選の判定をしている部分もある。市展の敷居が高いというご意見もあるが、やはり公募の展覧会なので権威は持たせなければならない。出品数と作品の質を両立させていかなければならないのでとても難しい課題だと思うが、今は数を増やすことに注力すべきだと思う。
- ・初めて観る人は展示作品のどこを見たらいいのかわからないという意見があった。出品者の作品に対しての思いや注目箇所であるとか、上位賞に入っている作品はどの点が評価されたかという解説があればもっと鑑賞しやすいのかなと思う。
- ・審査はデジタル化できない部分。鑑賞する人それぞれの視点で作品を楽しんでもらうことも大事。
- ・今日いただいた資料に簡単でいいので総括などが載っているとより良いと思った。
- ・市展のプログラムに番号を振るほうが良いと思う。来場者投票の際にそのほうがやりやすいと感じた。
- ・議論も尽きないので運営員会の場以外にも、協議の場を設けるような対応が必要と感じている。

## 4. 閉会